

⑫ 公開特許公報(A)

平1-308499

⑤Int. Cl.⁴ 識別記号 庁内整理番号 ④公開 平成1年(1989)12月13日
 C 11 D 9/44 7614-4H
 17/00 7614-4H
 // C 09 K 9/02 C-8930-4H 審査請求 未請求 請求項の数 2 (全3頁)

⑤4発明の名称 石 鹼

②1特 願 昭63-139083

②2出 願 昭63(1988)6月6日

⑦2発 明 者 安 藤 正 一 郎 東京都目黒区中目黒1-3-3 803号フラワービル
 ⑦2発 明 者 野 坂 征 男 東京都世田谷区下馬5丁目24番5号
 ⑦2発 明 者 諏 訪 源 久 東京都台東区浅草橋2-6-2 ジャロックス株式会社内
 ⑦1出 願 人 安 藤 正 一 郎 東京都目黒区中目黒1-3-3 803号フラワービル
 ⑦1出 願 人 野 坂 征 男 東京都世田谷区下馬5丁目24番5号
 ⑦4代 理 人 弁理士 佐 藤 彰 芳

明 細 書

1. 発明の名称

石 鹼

2. 特許請求の範囲

(1) 油脂を水酸化アルカリで煮て鹼化して得た石鹼素地に熱変色材料を加え、乾燥、成形したことを特徴とする石鹼。

(2) 油脂を水酸化アルカリで煮て鹼化して得た石鹼素地に熱変色材料を加え、略球状に乾燥、成形した石鹼を別途に用意した石鹼素地中に投入し、成形したことを特徴とする石鹼。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は石鹼、特に入浴用、洗顔用等として使用される固形の化粧石鹼に係り、一定温度を境として発消色する石鹼に関する。

〔発明の背景と目的〕

一般的に、固形の化粧石鹼は形状や香りがあまり変り映えがなく、日用的な消耗品として取扱われている。

そこで、本発明者達はこの化粧石鹼が通常、湯を介して使用されることが多いことに着目し、その湯との接触、即ち、加温により変色が生じ、雅趣深いものとし、商品の付加価値を高め、また、その変色も単純に、全体が無色、即ち、地色（これには不変色性の顔料も含まれる）とピンクや緑、青等の変化と、その変化部分の点在（これには複数色の変化も含まれる）させることができる石鹼を提供することを目的としている。

〔発明の概要〕

この目的を達成するために、本発明に係る石鹼は、油脂を水酸化アルカリで煮て鹼化して得た石鹼素地に熱変色材料を加え、乾燥、成形したことで、油脂を水酸化アルカリで煮て鹼化して得た石鹼素地に熱変色材料を加え、略球状に乾燥、成形した石鹼を別途に用意した石鹼素地中に投入し、成形したことを特徴としている。

〔作用〕

熱変色材料を加えたことで、一定の温度が加えられることで全体の変色が発することとなり、ま

た、そうした石鹼を球状にして別途の石鹼素地に投入、しかも複数種のを投入することで、変色部分、それも異なった変色の発する部分が点在する石鹼とすることができる。

〔実施例〕

次に、本発明の実施例を図面を参照しながら説明する。

まず、第一の実施例としては、油脂を水酸化アルカリで煮て、鹼化して石鹼素地を得る。この石鹼素地の生成は公知の設備、方法によって行なわれるもので、この石鹼素地にラベンダー、オレンジ、バラ等の香料と共に熱変色材料を加え、乾燥させて熱変色材料を混入して全体が変色する石鹼を得た。

この熱変色材料は、特に一定温度を境として発消色する可逆性のもの、即ち、電子供与性呈色性有機化合物、(いわゆるロイコ染料)、モノフェノール類からポリフェノール類のフェノール性水酸基を有する化合物、及びニトリル化合物とアルコールを必須成分とした組成物を使用した。本実

施例では湯による加温を想定するため、ロイコ染料にP・ヒドロキシ安息香酸ベンジルを用いると、約28°C~30°Cを境としてピンクに変色し、安息香酸亜鉛塩を用いると約40°Cを境として緑に変色した。また、P・クロロ安息香酸を用いると約20°C~25°Cで朱色に変色し、ステアリルアシッドホスフェートは約26°Cで黒色に変色する。又、青への変化はC.V.I.としてビスフェノール系を使用すればよいが、比較的低温の10°C前後で変色するため、特に湯でなくとも変色が生じることとなる。

第1図に示すのは第二の実施例に係る石鹼1の断面図である。この石鹼1は通常石鹼素地2中に前述した組成の変色を可能とした石鹼3・3…をランダムに点在させた構造となっている。また、点在する変色を可能とした石鹼3・3…は同一温度で同一色に変色するもののみを複数でもよいが、異なる温度で異なる色に変化するものを混ざって点在させてもよい。

この石鹼1は第一の実施例による石鹼を例えば

第3図に示すような合せ型4a・4bを用い、中に液状の可逆性変色材料を混入した石鹼素地を流入口4cから流し込み、栓4dで封をし、固形化させて球状に成形し、それを適宜、型5内にある別途に用意された通常石鹼素地2中に投入し、搅拌してから乾燥、成形すればよい。

こうして得られた石鹼1は使用する湯の温度に対応し、石鹼1内、もしくは表面に露出された変色を可能とした石鹼3・3…部分が変色し、石鹼1が消費されて、小さくなっていても効用は変わらずに済む。尚、変色を可能とした石鹼3・3…を球状としたのはどの方向から消費されても断面が略円形となることからであり、また、変色材料はゼラチン等で成形される微少のマイクロカプセルに収容して使用してもよい。

〔発明の効果〕

上述したように本発明に係る石鹼によると、加温によって色彩の変化が発生し、使用に際して非常に趣が増し、商品としての付加価値が高められる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明を実施した石鹼の断面図、第2図は同製造工程を示す概略断面図、第3図は同変色を可能とした石鹼の製造型を示す断面図である。

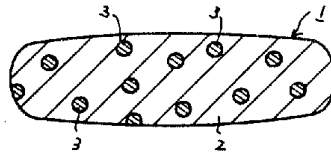
- 1…石鹼 2…通常石鹼素地
3…変色を可能とした石鹼

特許出願人 安藤 正一郎

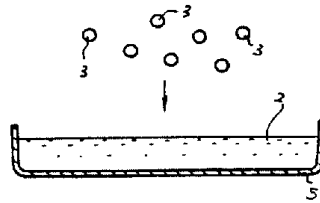
同 野坂 征男

代理人 弁理士 佐藤 彰芳

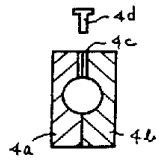
第 1 図



第 2 図



第 3 図



PAT-NO: JP401308499A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 01308499 A
TITLE: SOAP
PUBN-DATE: December 13, 1989

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
ANDO, SHOICHIRO	
NOSAKA, MASAO	
SUWA, MOTOHISA	

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
ANDO SHOICHIRO	N/A
NOSAKA MASAO	N/A

APPL-NO: JP63139083
APPL-DATE: June 6, 1988

INT-CL (IPC): C11D009/44 , C11D017/00 , C09K009/02

US-CL-CURRENT: 510/153

ABSTRACT:

PURPOSE: To obtain a soap capable of changing its color when heated and therefore having a higher value added as commercial product, by saponifying fat through boiling with an alkali hydroxide to give a soap base, incorporating a thermochromic material therein, and drying and molding the mixture.

CONSTITUTION: Fat is saponified through boiling with an alkali hydroxide to give a soap base, which is mixed with a thermochromic material, especially one that develops or extinguishes color at a certain temperature and has plasticity, i.e. an electron-donating, color-forming organic compound (leuco dye). The mixture is dried and molded to give a soap which changes its color as a whole depending upon temperatures. Alternatively, the soap base may be mixed with a

thermochromic material, and the mixture is dried and molded to give a soap 3 in nearly spherical form. The spheres of the soap 3 are put into a separately prepared soap base 2, which is then molded. If a plurality of different thermochromic materials are used herein, a soap can be obtained which develops various colors depending upon temperatures.

COPYRIGHT: (C)1989,JPO&Japio